

ほたるっ子



磐梯第一小学校
学校だより
NO. 33
R4. 9. 8
(文責: 校長 菅家 篤)

ドリーム&チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

暗唱チャレンジに取り組む子どもたち



「校長先生、暗唱チャレンジに来ました」と、子どもたちが校長室にやってきます。今週は、昨日までの三日間で13名の子どもたちが暗唱に挑戦しました。短期間で成功できたことに大変驚かされたと同時に、子どもたちの取り組みの素晴らしさを感じています。それは、

- ① 課題から逃げずに真正面から立ち向かう姿勢
- ② 挑戦すると決めたらすぐに取り組む態度
- ③ 絶対に覚えてやるという強い気持ち

です。ひとことと言うと物事に対する「前向きさ」です。前向きさは、「生きる力」の源です。学習でも運動でも、前向きさを持った子どもは、確実に力をつけていきます。磐梯一小には、そんな子どもたちがたくさんいます!



5日(月)に挑戦した3年生の二人

「この本を読みたいと思いつつ1年がたってしまった人は、5年たって10年たって読むことはないでしょう」

これは以前(随分前です)、テレビドラマ「僕の生きる道」で医師から余命一年とガン宣告を受けた高校教師を演じた、元SMAPの草彅剛さんのセリフです。

このセリフは、時間がまだまだあると思って、やろうと思ったことを先延ばしにしている人は、結局いつまで経っても行動に移すことはできないということを伝えているのだと思います。「思い立ったが吉日」という諺(ことわざ)がありますが、すぐに暗唱にチャレンジする子どもたちの姿に触れ、この諺を思い出しました。

「ひび割れ壺」



(作者不詳 菅原裕子訳)

私が出合った心に残るお話を、数回に分けて紹介します。

インドのある水汲み人足は二つの壺を持っていました。天秤棒の端にそれぞれの壺を下げ、首の後ろで天秤棒を左右にかけて、彼は水を運びます。

その壺の一つにはひびが入っています。もう一つの完璧な壺が、小川からご主人様の家まで一滴の水もこぼさないのに、ひび割れ壺は人足が水をいっぱい入れてくれても、ご主人様の家に着くころには、水が半分になっているのです。

完璧な壺は、いつも自分を誇りに思っていました。なぜなら、彼が作られたその本来の目的をいつも達成することができたから。

ひび割れ壺は、いつも自分を恥じていました。なぜなら、彼が作られたその本来の目的を、半分しか達成することができなかったから…。(つづく)



さて、この後、ひび割れ壺の話はどう展開していくのでしょうか。続きは次号で!!

「親子でチャレンジ」前回の答えは「音」です。「音程」「音速」「足音」「音質」という言葉ができます。